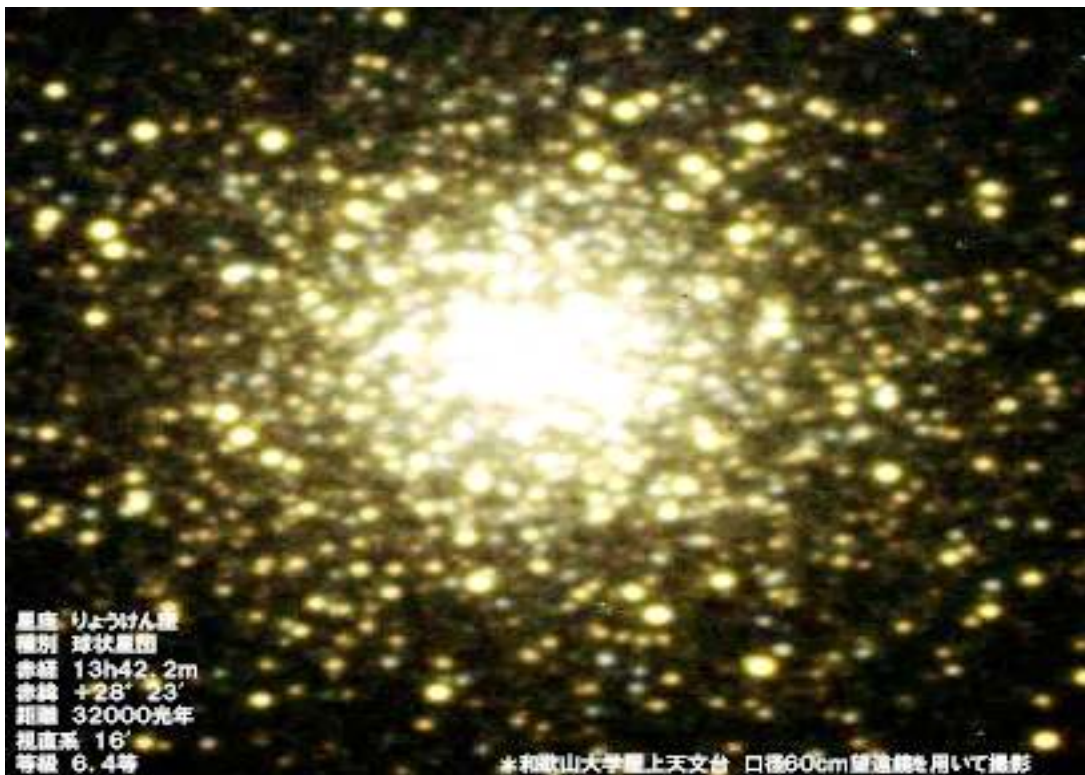


星をみせし...

2009. Spring Vol.5

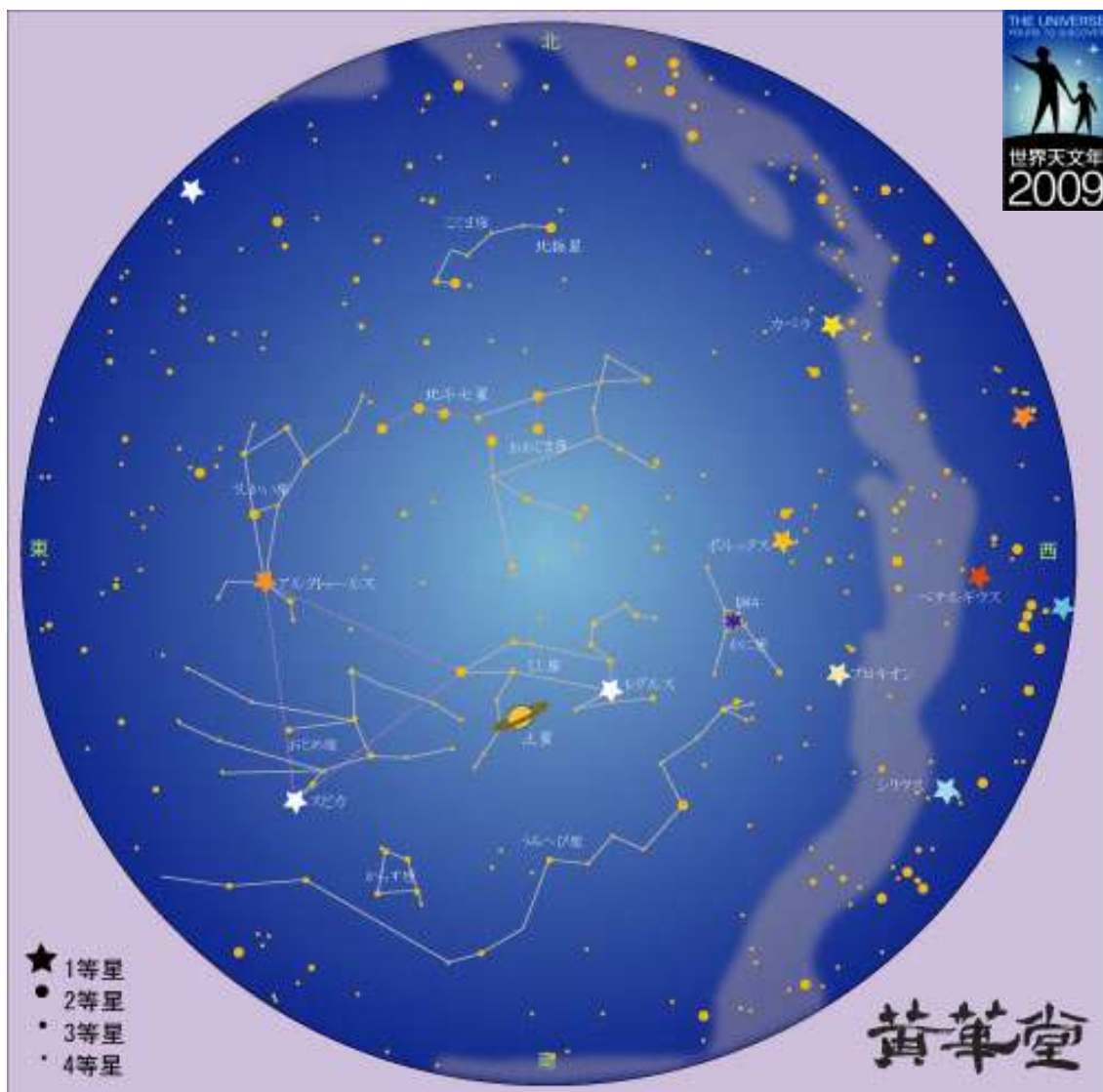


双眼鏡でも確認できる星の密集地帯

これは球状星団と呼ばれ、数万～数百万個の星が互いの重力で球のように集まった天体です。前号紹介した散開星団（すばる）とは対照的に、数10～100億歳以上の非常に年老いた星々で構成されています。我々の銀河系が誕生した頃の天体といえるので、銀河系の「化石」ともいわれます。写真はM3でりょうけん座にある春の代表的な球状星団の1つです。空の状態が良ければ双眼鏡でも存在を確認することができます。ちなみにこの写真は和歌山大学屋上天文台にある60cm望遠鏡で撮影したものです。

もし、球状星団の中に地球のような惑星があったとすれば、その惑星から見える夜空は地球よりもはるかに無数の星々で輝いていることでしょう。

見上げてごらん 「春の星空と星座」



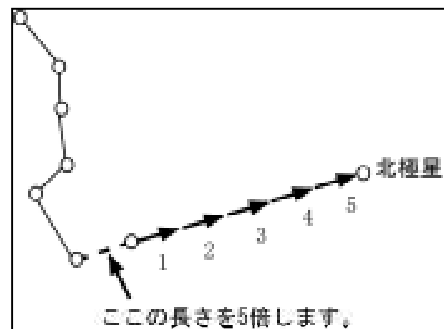
にぎやかだった冬の星座たちは西の空へ傾き、かに座やしし座、おおぐま座など春の星座が主役の時期となりました。春の夜空で、まず北斗七星を探してみましょう。ひしゃくの持ち手の曲線を延長すると、うしかい座のアルクトゥールス、おとめ座のスピカからなる大きなカーブ「春の大曲線」があります。さらに、西の空には、しし座のデネボラ、アルクトゥールス、スピカと結んでできる三角形が「春の大三角」を見ることができます。

また、南の空高くには、星の並びが裏返った「？」マークの形に似たしし座、その足元には土星も輝いています。

☆北斗七星（おおぐま座）

北の空に7つの星がひしゃくの形に並んでいます。これが北斗七星で、おおぐま座の一部です。北斗七星は、秋～冬にかけては見えにくく、春～夏になると北の空で見えるようになります。北斗七星を使えば、右の図のように北極星を見つけることができます。

また、ひしゃくの持ち手から、2番目の星をよくみると、明るい星の横に、暗い星がちょこんとくっついて輝いているのがわかります。アラビアでは2つの星が分離して見えるかを兵隊の視力検査に用いていたそうです。



☆しし座

星占いでもおなじみの星座です。一等星のレグルスがしし座を見つける目印になります。レグルスはライオンの心臓にあたり、そこから上へ、鏡に映った「？」マーク（ナテハマーク!?）に星をたどったところが頭です。このナテハマークは、「ししの大鎌」とも呼ばれています。しし座は、11月に見られる流星群も有名で、時には1時間に数百個～数万個という大量の流れ星を見ることもできます。

400文字のギリシャ神話 「からす座」～銀色の羽をもつ神の使い～

カラスはその昔、太陽の神アポロンに仕える鳥で、銀色の翼を持ち、人間の言葉も話すことができました。

ある時、アポロンは美しい人間の娘コロニスと恋をしましたが、神と人間は一緒に住むことはできません。そこで、カラスに二人の間を往復させ、互いの様子を伝えさせました。

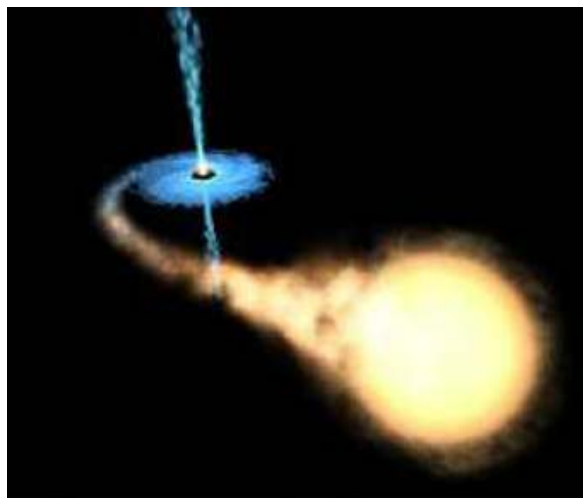
ある日、カラスは道草を食い、アポロンの下へ行くのが遅くなってしまいました。アポロンから遅くなった理由を問われ、困ったカラスは「コロニスが他の男と浮気している」と嘘をついてしまいます。

それを聞いてアポロンは、すぐさま地上に降り、コロニスの屋敷から出てきた人影を矢で射抜きます。屋敷の前で倒れていたのは愛するコロニスでした。コロニスは、最後にアポロンの子どもを宿していると告げ、そのまま息を引き取ってしまいます。

カラスのついた嘘に怒り狂ったアポロンは、カラスから人間の言葉を取り上げ、さらに銀色の羽を真っ黒に変えて、空に貼り付けてしまったのでした。

楽しい天文学入門 『ブラックホールの力』

ブラックホールは何でも吸い込むというイメージが強い天体です。しかし実際には天体は吸い込まれる前に破壊されてしまいます。このとき天体を破壊した力は潮汐力です。潮汐力はブラックホールの質量が大きいほど、また破壊される天体の直径が大きいほど強くなるという性質を持っています。では、人間がブラックホールに近づくとどうになってしまうのでしょうか？



ブラックホールに吸い込まれる天体のイメージ図（画像提供：NASA）

計算してみると人間の体にはたらく潮汐力は驚くほど小さく、ブラックホールのかなり近くまで接近することができます。

おもしろいことにブラックホールの表面付近の潮汐力はブラックホールが巨大になるほど小さくなるので、太陽の1億倍程度の質量をもつブラックホールでは表面付近でも人間に影響を与えるほどの潮汐力にはなりません。もし人間がブラックホールに入ろうとするならば巨大ブラックホールを目指すべきなのでしょう。ただし巨大ブラックホールは地球から遠方にあるため、現在の技術ではブラックホールに接近すること自体が困難です。

（久世 直毅）

黄華堂からのお知らせ 「今後の活動予定」

いよいよ黄華堂でも「星空案内人（星のソムリエ）資格認定講座」を始めます。12月まで全9回の予定ですが、最初の3回はそれぞれ4月11日、5月2日、6月20日のいずれも土曜日、午後4時から烏丸御池下がったところにある新風館で行います。詳細は黄華堂のWebでご確認ください。

今年は世界天文年です。いろいろな機会を利用して星空を楽しんでください。黄華堂が実施する世界天文年公認イベントなども盛りだくさんありますので、ぜひ、詳細をWebでチェックしてみてください。新風館でみなさんお会いしましょう。

“子どもたちに本物の星空を！”をテーマに活動している星空ボランティアグループ

Mail : info@oukado.org HP : <http://www.oukado.org/>

Mixi : http://mixi.jp/view_community.pl?id=2816441

・・・あなたも黄華堂に参加しませんか？メールでご連絡ください。

黄華堂

